



## 見る、知る、伝える千葉 創作狂言 「ヤマトタケルと オトタチバナヒメ」

“創作狂言”とは、房総に伝えられてきた民話や伝承と、日本の伝統芸能である狂言を融合し、創り上げる狂言です。

これらを、未来に伝承・発展させるために、千葉大学、県・市の文化振興財団、NPO法人フォーエヴァーの4団体で委員会を組織し、地域の方々と共に取り組んでいます。

今年は、千葉に伝わる“ヤマトタケル伝承”を題材に、狂言を創作しました。



千葉大学では、普遍教育「伝統文化をつくる」の授業の中で、台本・衣裳・小道具・チラシ・プログラム・パネルなどの製作を行いました。



この授業の講師を、和泉流狂言師・小笠原匡さんと一緒に財団職員が務めました。財団職員は、主に公演の運営や広報など、アートマネジメントの授業を行いました。

狂言体験講座を、10月から計5回開講し、この講座を受講した小学生から60歳代までの方が公演に出演しました。

はじめて狂言を習う方から、毎年講座を受講されている方までさまざまですが、どの方々も役に入り込み、一生懸命、演じていました。

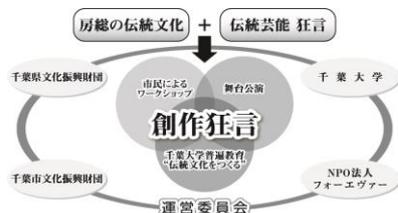
児童を対象に、狂言ワークショップを小学校で開いたり、公演前に狂言体験教室を開き、馴染みの薄い狂言に親しみをもってもらえるような取り組みも行いました。



ホールの入口やロビーに、千葉大学学生が製作した狂言やヤマトタケルに関するパネルや、版画家・土屋金司さんの「版画から飛び出たマリオネットの巨人たち」と題した作品を展示し、公演前や休憩時間もお客さまに楽しんでいただくことができました。

毎年、みなさんから楽しみにしていただいている創作狂言。たくさんの方々に支えられ、今年も無事に公演を終了することができました。ありがとうございました。

千葉県には、たくさんの民話や伝承が残されています。これまでに千葉県笑(千葉市)、羽衣伝承(千葉市)、鬼来迎(横芝光町)、ヤマトタケル伝承(県内各地)、八幡の藪知らず(市川市)を題材にしました。さて、次回はどんな民話や伝承が題材になるのでしょうか？来年も公演を予定しています。楽しみにしてください。



【公演日】  
千葉公演 2014年11月29日(土)  
東総公演 2014年11月30日(日)

【会場】  
千葉県文化会館 小ホール  
千葉県東総文化会館 小ホール

【出演】  
狂言師：小笠原 匡 山本豪一  
泉 慎也

加藤充華  
若菜の会 千葉大学学生  
狂言体験講座参加者 15名

【主催】  
公益財団法人千葉県文化振興財団  
公益財団法人千葉市文化振興財団

【運営】  
見る、知る、伝える千葉  
～創作狂言～運営委員会

【助成】  
芸術文化振興基金

【後援】  
千葉県  
千葉県教育委員会  
千葉市  
千葉市教育委員会  
銚子市教育委員会  
旭市教育委員会  
匝瑳市教育委員会

【協力】  
ちば文化振興ネットワーク協議会

【入場料金】  
自由席：2,000円 学生：1,000円

【入場者数】  
千葉公演 221名  
東総公演 226名

【演目】  
レクチャー&デモンストレーション  
袴狂言「<sup>あまの</sup>酔薑」  
創作狂言  
「ヤマトタケルとオトタチバナヒメ」